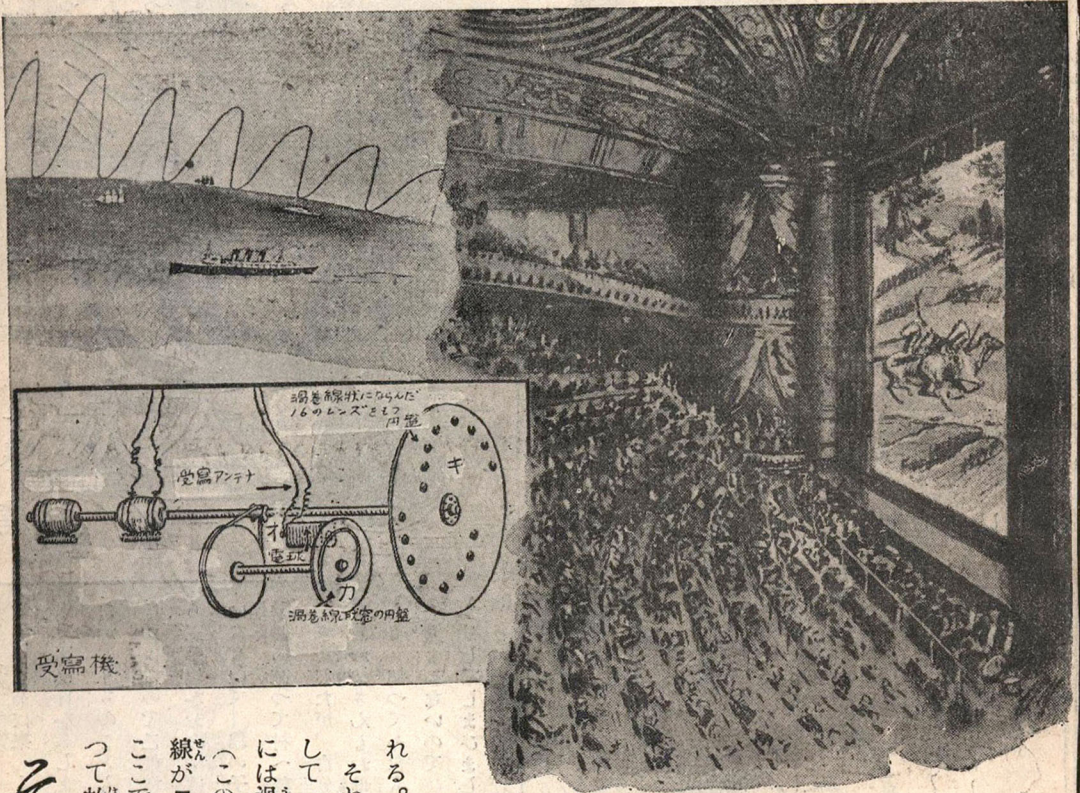


# テレビジョンの發



## テ

レビジョンと云ふのはラヂオで音を放送するやうに、光を送つて、遠い處の人に目に見せようと云ふ發明であります。各國のラヂオ學者は音を放送する方のラヂオは殆んど完成してしまつたので、皆このレビジョンの方へ研究を向けるやうになりました。

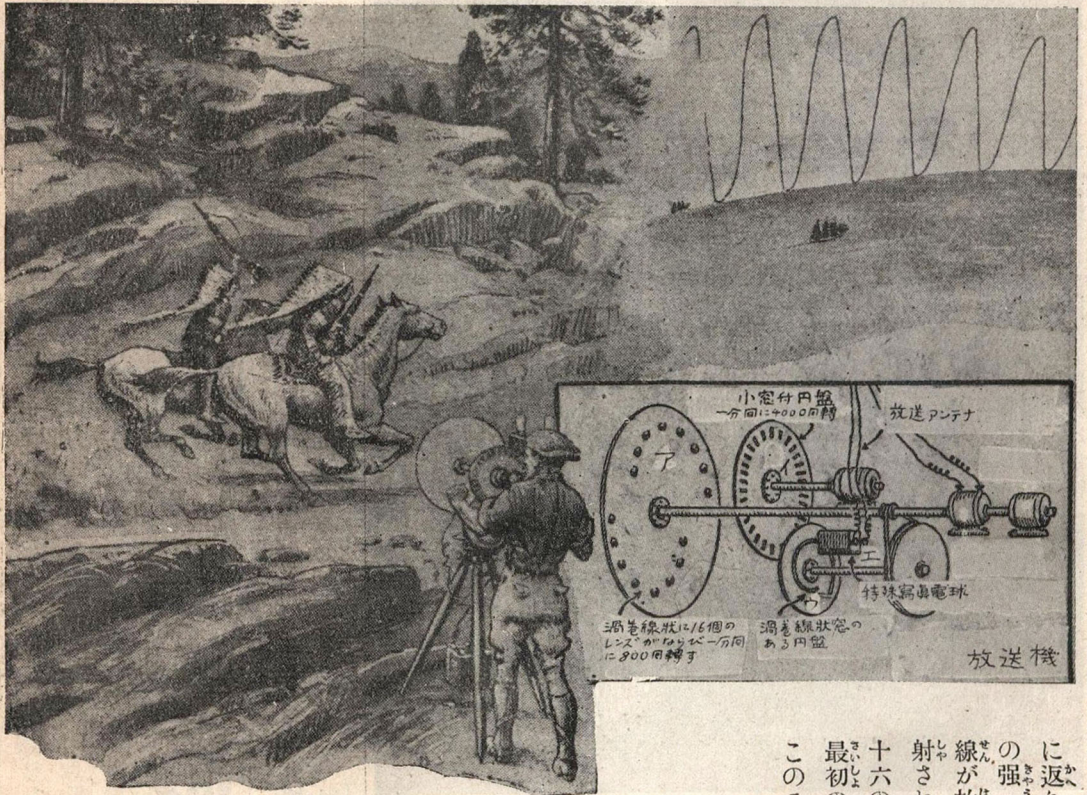
英國スコットランドの發明家ジョン・エル・ベアド氏は九哩の遠方へそれを放送映寫することに成功しました。氏はまだ三十七歳の若い學者です。ベアド氏のレビジョンでは、實像(即ち放送するもの、形をそのまま、で放送受寫するのではなく、非常な高速度で分解して放送すること)になつてゐる。

第一實像は放送機の圓盤アに、渦巻線状にとりつけた十六のレンズによつて、荒分けに分けられる。この圓盤は一分間に八百回の速度で廻つてゐる。それから小窓の明いた圓盤イが一分間に四千回、同轉して一層實像を小さく分解する。それから第三の圓盤ウには渦巻状の窓があつて、これで光は更に細分される。(この圓盤も高速度で廻轉してゐる。)この細分された光線がエといふ「寫眞電球」と云ふ特殊の真空管にあつたところ、ここで光線は電流に變じ、それがアンテナから電波となつて放送される。

## そ

の放送された電波は受寫機のアンテナにふれて、電流となり、オの電球に入つてもとの光線

# 明 ラ す 活 才 動 放 寫 の 話



に返り、電球を光らせる。かうして相次いで受ける電流の強弱によつて、電球は明るくなり暗くなる。その光線が放送機の方のウと同じ圓盤力の渦巻線状の窓から放射され、更にアと同じ圓盤キの渦巻線状にならべられた十六のレンズから射出されて、それが幕の上につり、最初の實像の形が寫し出されるのであります。

このテレビジョンはまだ色をそのまゝに寫し出すまでには進歩してゐませんが實像の大體の形が映寫され動いてゐるものは動いてゐるまゝに寫されまゝです。ここまで成就すれば、完成は近い内で、今にアリゾナの高原でインデアンを狩をする勇ましい光景が放送されて、それを東京の活動館で受寫して見せることが出来るやうになるでせう。

ベアド氏は既に九哩の遠方にまでボンヤリながらこの放送に成功してゐるので、氏は毎夜午前二時頃にこの實驗をつやけてゐるさうで、ロンドンでラジオファンはそのテレビジョンの電波を音として聞くことが出来るさうで、今の音は顔の音今の音は手の音と、わかるやうになるかも知れず、その波長は二百メートルださうで、放送機と受寫機との圓盤は全く同じ速さで回轉しないと受寫することが出来ません。又この仕懸けのまゝで、ラジオによらず、有線でやると一層明瞭に寫し出すことが出来るさうです。(思水生)